

祝 南丹市制5周年記念式典



1月29日、園部公民館で来賓、招待者など約330人の皆さんにご臨席いただき、市制5周年記念式典を挙りました。

第1部の式典では、行政・体育・福祉など各分野で多大なる貢献をいただいた自治功労者および功績者、多額の寄附をいただいた善行者を表彰。また、第2部として料理研究家程一彦氏の記念講演を行い、市制5周年を祝いました。

南丹市制5周年記念式典を挙るにあたり、山田啓二京都府知事の代理として、副知事太田昇様、並びに国会議員、府議会議員、近隣各市町長、議長の皆様をはじめ、ご来賓各位、そして多くの市民の皆様のご臨席を賜り、盛大に挙行することができましたことに、心から厚くお礼申し上げます。さらには、後ほど自治功労者、功績者、並びに善行者の表彰を受けられる皆様には、各分野において多大なるご功労とご活躍を賜り、深く敬意を表します。

また、平成18年1月1日の南丹市の誕生から今日に至るまで、市政推進に深いご理解、ご協力をいただきました市民の皆様、またそれぞれの立場においてご支援をいただきました皆様、誠にありがとうございます。

旧園部町、八木町、日吉町、美山町が1つになり誕生した南丹市は、面積は616.31平方キロメートルで、京都市域を除く京都府の16.3パーセントを占める広大な面積を擁する市です。また、恵まれた自然環境、澄んだ空気と水、そして、それぞれの町で皆様が培ってこられた歴史、伝統文化、産業など、素晴らしい資源を継承しました。

私たちは、こうしたかけがえのない財産を基盤として、市民であるこ

とに「誇り」をもち、市民の皆様が強い「きずな」を結べるよう、「誇りときずな」を大切に、「子ども」「安心」「地域」「産業」の4つの「未来（あす）をつくる」を政策の基本に、輝く将来の南丹市を目指してまちづくりを進めています。

その一方で、今日の地方自治体は、行財政改革、少子・高齢化や人権、福祉、環境、教育、防犯・防災など、地域社会の課題は複雑かつ多様化し、南丹市も大きな課題に直面していますが、今後の取り組みを進めていくうえで、最も重要なことは、「市民協働」だと考えています。市民の皆様と行政がそれぞれの役割を明確にし、お互いにパートナーであるという認識を持って、一緒にまちづくりを進めていかなければなりません。

課題はたくさんありますが、今まで基幹産業として当地域を支えてきた農林業や豊富な観光資源はもとより、市内に数多く存在する高等教育機関や福祉施設などの豊富な地域資源を十分に活用し、ネットワーク化を図るなかで、新しいまちづくりを進めていく所存でございます。

特に、昨年春に完成したJR山陰本線複線化開業や京都縦貫自動車道延伸を始め、環境にやさしいバイオマスの利活用に向けた取り組みや森を元気に、みんなで守り育てようと

始まった「京都モデルフォレスト運動」など、未来に希望の持てる事業も着々と進んでおり、皆様にますます魅力を感じていただける南丹市になるものと思っています。

また、南丹市が市制5周年を迎えるこの記念すべき年に、京都府において「第26回国民文化祭」が開催されます。南丹市におきましても、美術展「工芸」と、工房と里の秋めぐり「里の秋マップ」を開催することになっており、その成功に向けて準備を進めているところです。

そしてこの国民文化祭を契機に、市内在住の工芸家や地域で特産品づくりなどに取り組まれている方、基幹産業である農林業に携わっていただいている方々、そして、南丹市の経済を支えていただいている誘致企業などと連携し合い、新たな「ものづくりのまち」を目指して、努力したいと考えています。

結びにあたり、南丹市の限りない発展を念願し、ご多忙のなかご臨席を賜りました皆様のますますのご活躍とご多幸を心からお祈りしますとともに、市政推進に対する今後とものお力添えをお願い申し上げます、式辞とします。

平成23年1月29日

南丹市長 佐々木 総納